

主任班グループ別研修

研究テーマ『園運営の要としての主任の役割～役割を果たすための力量を身に付ける～』

主任班は、園長に次ぐ主任と発達支援の部屋専任教諭が、立場や園の実情に合わせた視点を窓口として、自己課題や実践について協議や情報交換を行った。また、助言の園長からは主任の役割についての御指導をいただき、意識を高めることができた。

<グループ協議 主任班1 A～Fグループ>

① 少人数園、複式学級の保育の充実（Aグループ）

・各園の状況を伝え合う中で、①少人数の中での集団としての経験 ②4・5歳の発達段階の違いによる複式保育の難しさ ③主体性の育ませ方 の3点の課題があがった。次回以降の研修で協議していきたい。

② 保育推進のリーダーとしての発信力や助言力の育成（Bグループ）

・保育後の振り返りや反省の際に、職員の意見を引き出すためには工夫が必要である。また、経験の浅い職員には、保育を見せたり一緒に教材準備をしたりするなどの方法も有効である。

③ 保育推進のリーダーとしての発信力や助言力の育成（Cグループ）

・職員には適切な言葉で助言していくことが大切である。そして相手が納得できるまで関わってけるとよい。職員と良好な関係を築き、話しやすい雰囲気を作りたい。

④ 幼小の円滑な接続（Dグループ）

・幼小の職員が互いに行き来し交流する中で小学校生活を知る機会としたり、スタートカリキュラムを作成したり、また、就学を意識した保育を取り入れたりするなど、できることに取り組んでいくことが大切である。

⑤ 園経営が円滑に進むためのマネジメント（Eグループ）

・担任や発達支援担当、育成教諭など、職員の職務も多様化しており、調整役となっていくことが必要である。若手職員へのサポートをしつつ、主任が保育を見せながら知らせていくことを大切にしたい。

⑥ 発達支援教育の理解と保育の充実（Fグループ）

・担任と発達支援担当やキッズサポーターとの連携が大切である。また、子供が互いに育ち合うことができる支援が必要である。よりよい保育と学級経営につながる発達支援について学んでいきたい。



主任班1 ～助言者御指導（抜粋）～

- ・職員指導では、個々の「主体的に学ぶ姿勢」を養うためにも①共感する・褒める・勇気付ける ②フィードバックの機会を作るという2点を心掛けるとよい。①では、「勇気付けられることで、自己肯定感が高まる→ポジティブな思考になる→チャレンジしようとする」というように、心が変わり、思考が変わることで、行動が変わっていく。②では、自分自身を振り返り、成果や課題を自分で見出すことができるようになる。
- ・上記の例として、「個人の振り返り→各自振り返りの発表→先輩からのアドバイス→主任によるボイスシャワー」という流れで、打ち合わせの際に行う。若手職員だけではなく、先輩職員も今までの自己の実践を振り返るよい場となる。ただし、この2つを行うにあたり、まずは「職員間で、課題やネガティブなことを言い合うことができる」など、誰もが排他されない、誰もが安心できる職員間の環境づくり、風通しのよい風土が大切である。

〈グループ協議 主任班2 G～Jグループ〉

① 少人数園、複式学級の保育の充実（Gグループ）

- ・複式学級の保育や少人数学級では、友達からの刺激や子供発信の遊びが少ないという課題がある。教師がねらいをもち、子供に提案することも時には必要だが、子供自身が遊びを進めていく体験を大切にしたい。

② 幼小の円滑な接続（Hグループ）

- ・幼小の連携が積極的に行われている園もあれば、幼小の人数差や位置関係で交流をもちにくい園もある。円滑な接続に向けて園の実態に応じた取組を模索していきたい。次回は各園の交流計画を持ち寄り、それぞれの園の取組や交流の仕方、また、その成果などを話し合いたい。

③ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Iグループ）

- ・園長と職員をつなぐために園長が考える経営方針を理解し、それを分かりやすく職員に伝えていくことが大切である。また、若手職員に対し、次の日につながる保育のアドバイスをしたり悩みを理解したりして関係性を深めることで、職員が自己肯定感を高められるようにしていきたい。

④ 発達支援教育の理解と保育の充実（Jグループ）

- ・各園の発達支援の部屋の取組について情報共有した。発達支援の部屋と学級との支援の連携や、保護者との連携の難しさが課題として挙げられた。次回は学級との連携につながる資料を持ち寄り、保育の充実につなげていく。



主任班2～助言者御指導（抜粋）～

- ・今回の研修会では、現場の情報交換や課題の共有ができていた。課題解決のための取組など自身の経験を伝え合うことが主任同士の育ちにつながる。園運営を円滑に進めるためという目標に向かって、主任としてできることを模索して行ってほしい。
- ・各園それぞれに課題はあるが、子供中心の視点で、一人一人が充実して過ごすことをねらい、現状を踏まえて何ができるか考えていくことが重要である。思いを伝え、できた喜びを教師に受け止めてもらうことが遊びの充実につながる。
- ・職員同士の連携においても、自分らしさを受け入れてもらう経験を重ね、気持ちがつながる瞬間を増やしていくことが大切である。主任の役割として自らの経験を伝えつつ、信頼と敬意をもって接する、相手のペースに合わせた伝え方をするなど、相手に伝わるための努力や工夫をしてほしい。
- ・園長と方向性を合わせ、職員全体を把握し、どうしたらよいか考え続けることが課題解決の実現につながる。職員間で話せる状況を作り出すために、主任が間に立つことが求められる。